



## 結核・非結核性抗酸菌症診療 Q&A

編集：日本結核病学会

A5判 166頁 南江堂 2014年4月

定価(本体2,600円+税)

[ISBN 978-4-524-26601-2]



「結核・非結核性抗酸菌症診療 Q&A」は、日本結核病学会 (JSTB) に寄せられた結核および非結核性抗酸菌症 (NTM 症) に関する数多くの質問に対し、専門医が回答したものを項目ごとに整理しまとめ、JSTB が編集したものである。今回の書籍化に際し、原稿を見直し、さらに、図表、文献などを加え、結核や NTM の専門医には参考書となり、また、専門外の医師にも非常にわかりやすい内容となっている。

本書のもっとも大きな特徴は、Q&A 形式で書かれていることである。「Q」は、主に JSTB の会員が結核症および NTM 症に関して日常臨床で感じた疑問であり、全部で 50 問 (結核症 43 問、NTM 症 7 問) ある。

結核症に関しては、感染管理・予防、診断、治療の項目に分けられている。感染管理・予防は、ツベルクリン反応 (ツ反)・インターフェロン $\gamma$ 遊離試験 (IGRA) (3 問)、接触者健診 (4 問)、BCG 接種 (3 問)、院内感染予防対策 (5 問)、診断は、各々 1 問で、結核遺伝子診断 LAMP 法、喀痰抗酸菌検査、胃液抗酸菌検査、肺結核画像診断、治療は、抗結核薬の副作用 (7 問)、潜在性結核の治療 (4 問)、その他 (12 問)、に細分され、結核死の定義 (1 問) についても触れられている。

NTM 症に関しては、肺 MAC 症関連 (4 問)、*M. abscessus* 症 (1 問) および *M. kansasii* 症 (1 問)、手術治療 (1 問)、に細分されている。

「Q」の多くは、教科書に詳述されていないが日常臨床には大事な点であり、それらに対する回答はわかりやすく大変参考になる。筆者の参考になったいくつかを紹介する。結核症では、Q2 は看護学生の臨床実習時におけるツ反・IGRA の必要性を問うものであり、回答は、2 段階ツ反は推奨せず、IGRA を推奨している。Q4 は接触者健診における IGRA の解釈と対応を問うものであるが、IGRA の陽性者、判定保留者および陰性者に対する対応 [経過観察の

有無、期間、方法 (CT 検査の必要性など)、INH 予防投与が必要な者の定義、など詳細に記載されている。妊娠時の接触者健診 (Q7)、BCG 未接種の幼児～学童にツ反や BCG 接種は必要か (Q8)、などは実際にこのような事例に出くわすことは少ないが、いざというときに大変参考になると思われる。画像診断 (Q19) では、肺がんと肺結核症の合併例の胸部 X 線と CT 所見が呈示されていて、両者の特徴を比較することで肺結核症の画像診断のポイントを説明していて大変興味深い。抗結核薬の治療中の副作用への対応では発熱 (Q21)、嘔吐 (Q23)、肝障害 (Q24)、白血球減少 (Q25)、および末梢神経障害 (Q26) に対する対応が詳述されている。NTM 症に関しては、肺 MAC 症の治療開始時期 (Q44)、肺 MAC 症に対するフルオロキノロン薬の併用 (Q45)、肺 MAC 症治療薬の副作用出現時の対応 (Q46、Q47)、*M. abscessus* 症 (Q48) および *M. kansasii* 症 (Q49) の治療、手術治療の適応と術後化学療法 (Q50) である。NTM 症、とくに肺 MAC 症は今後も中高年女性を中心に増加が予想される疾患であり、いずれもが実地臨床に役立つ内容である。

以上、本書は、繰り返しになるが、教科書には詳述されていないが結核症および NTM 症に関して日常臨床で生じた疑問に答える形で構成されていて、読者は自分が感じる疑問と同じような質問の項を読むことで疑問が解消されるようになっている。値段も 2,600 円 (本体価格) と手頃であり、結核症・NTM 症診療に携わる者や呼吸器内科医はもちろん、多くの臨床医の手元に置いていただきたい一冊である。

評者 ■ 久保恵嗣

(信州大学名誉教授/長野県立病院機構  
理事長)